

**学校の標語** 「#リスペクト」(生徒、教職員が一人ひとりを大切にする)

**学校の教育目標** 「学校は学びの場である」「学校は地域にある」という理念に基づき、施設一体型小中連携校としての特色を生かし、教育目標の具現化を目指す。学びの自主性を育むとともに、望ましい集団生活から社会性を身に付け、自他の健康の保持増進に努める意識を高めるために、教育目標を定める。

○ 学び続ける人      ◎ 心豊かで、思いやりの有る人      ○ 明るく、健やかな人

**目指す学校像**

- ① 生徒一人一人が関わり合いながら生き生きと活動できる、明るく楽しい学校
- ② 施設一体型を生かした小中連携教育を推進する安全で、安心できる学校
- ③ 学習者中心の授業をめざす学校(主体的・対話的で深い学びの実現、安心して学べる授業規律)

**目指す生徒像(学校の教育目標の具現化)**

- ① 意欲をもって学び、考え、行動し、さらに自分を高めるために学ぶ人
- ② 相手の気持ちを大切に、多様な人々と共に生きようとする人
- ③ 困難にも粘り強く向き合う精神と、それを支える体力がある人

**教育課程を踏まえた取組** 「子どもの権利条約」の4原則(「差別の禁止」「子どもの最善の利益」「生命、生存及び発達に対する権利」「子どもの意見の尊重」)及び「こども基本法」「江東区こどもの権利に関する条例」を守り、SWPBSの考え方を取り入れながら、社会モデルに基づく人権感覚の醸成を図り、生徒の主体性を育む教育を推進する。

**「学び続ける人」の育成**

- ・常に「汎用的な知識、技能(核となる基本のコンピテンシー)」と「問題解決力・思考力・判断力・表現力等(認知的スキル)」の両面を意識した指導を計画的に行い、「授業改善推進プラン」で定期点検
- ・ICT『Ariakeスタイル』を活用し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実
- ・「タテとヨコの関係」「何のために学ぶのか」「どう役立つのか」等を明示した授業づくり

**「心豊かで、思いやりの有る人」の育成**

- ・「意欲・態度、価値観・倫理観(核となる基本のコンピテンシー)」と「自分や他者の感情を理解し適切に関わる力(社会情動的スキル)」を意識し、道徳教育・人権教育・キャリア教育を推進
- ・SWPBSの導入を見据え、ポジティブな行動を互いに認め、支援する環境を構築
- ・「持続可能な開発のための教育(ESD/SDGs)」をテーマに連携教育を推進

**「明るく、健やかな人」の育成**

- ・体力スタンダードを踏まえた健康・体力の向上
- ・家庭と協力して「早寝、早起き、朝ごはん」を励行
- ・保護者との共通理解、連携した体制を確立し、安心して通える学校づくりを推進
- ・学校いじめ防止基本方針を踏まえ、いじめの未然防止、早期発見及び確実な対応を推進

**多様な生徒がいることを前提とした教育の充実**

- ・特別支援学級と通常の学級との交流及び共同学習の推進
- ・学校生活支援シートや個別指導計画を作成し、社会モデルに基づき、本人及び保護者とともに合理的配慮の調整を行うことで、支援を充実
- ・不登校生徒を含めた一人一人への支援の充実と、魅力ある学校づくりの推進

**特色ある教育活動の推進**

**<小中連携教育の推進>**

- ・教職員の共通理解の上に児童生徒に達成感をもたせ、「学び続ける人」や「心豊かで、思いやりの有る人」の育成に関わる基本方針に基づいて実施
- ・教員が連続・接続・交流の部会に所属し、「ESD/SDGs」や「9年間カリキュラム」を基に、指導方法等の共通理解や意見交換を行って連続性のある指導を目指した取組を推進

**<外部人材の活用及び地域等との連携>**

- ・外部から専門的な人材を招聘し、教育目標の達成を目指した取組を推進
- ・キャリア教育の視点を踏まえ、職場体験等で地域等との連携を深め、部活動等でも発信・発表の場を設け、生徒の活躍の場を拡大
- ・地域の施設や設備等の資源の有効活用

**経営上の留意点**

- 「はやく・みえる・わかる」 : 各分掌の役割分担を明確化し、組織的対応で職務の精度向上と効率化
- 安全確保と生徒育成 : 常に修正・精選・見直しの観点を持ち、柔軟に分掌を遂行
- 情報共有と会議の効率化 : 報告・連絡・相談・記録・調整を迅速化し、事前のアジェンダ提示と開始時刻厳守の徹底
- 事務担当者との連携と予算活用 : 効果的・創造的に予算の活用し、必要物品を計画的に購入
- 保護者・地域との協力関係強化 : 来校機会を増やして信頼関係を築き、感染症の状況に応じた柔軟な対応
- 健康の維持管理・接遇向上・サービスの厳正 : 公務員としての使命感と人権感覚を高め、互いにリスペクトし、互いの強みを活かそうとするポジティブな職場風土を形成